

ほんまぢ

5 月 園だより

令和 2年 5月 14 日

渋谷区立本町幼稚園発行

<https://www.fureai-cloud.jp/hon-yo/>

今できることを

園長 森山未来

季節は、新緑と若葉の頃となり、こどもの日の 5 月 5 日には、立夏を迎えました。園庭の桜は早緑色の葉ですっかり覆われました。静まり返った園庭に佇むと、あそこに、ここに、子供たちがいるような錯覚を覚えます。一方、地面に目を転じると、ひっそりと自粛する人間たちをよそに、植物も小さな生き物も、生き生きと活動する姿を見ることができます。アリたちは巣穴を拡大させ、ダンゴムシは身を寄せ合って仲間を増やしています(コドモタチニツカマラナイネ! ドウシタノカナ?)。自然体とは、まさにこの状態。様々なことを案じたり、憂いたり、不安になったりすることが多い中、自然の営みから私たちの日々の在りようを教わる気がしました。自分にできることを丁寧に確実に続けること、そして、些細なことにも喜びを見出し、未来に希望をもち続けること…大事ですね(ダイジダイジ!)

今、困難な状況と対峙し、不安や不穏が増幅する中で、“私が主体となる”ということが、いかに大切であるかということを示される思いです。様々な情報が錯綜していますが、知恵を尽くして考え、心を働かせて想像し、決断し、やり抜き、乗り越えていく…この営みは全て、他人事ではなく自分事です。自分を取り巻くつながりや支えを糧として、生活や学びを自分軸で積み重ねていくことが、よりよく自分自身を生きる源になります。そして、この社会をよりよく生きるためには、他者の存在が不可欠です。私たち人間は、いつも強いわけではありませんね。時に、自分自身の痛みや弱さを知るから、他者の痛みや弱さにも共感(empathy)でき、その人の思いに寄り添い、自分事として行動する器へと成長できるのだらうと思います。

小学校以降の児童・生徒の学習を止めないために、様々な取り組みや工夫が勘案されていますが、幼稚園の教育についても、幼児にとって本当に大切なことが何であるのか、この機会にしっかりと見つめていきたいと思っています。

休園期間が延長となり、5 月末まで友達や先生と直接会うことができなくなりました。直接触れ合うことで得られる人との関わりは、かけがえのないものです。しかし、人と関わる機会が奪われたとしても、「人」を知ることは可能です。何気ない家族との会話から、言葉や人の温かみを知ることはできるはずです。また、絵本を見る時間をつくることもできます。自分で字を読むお子さんにも、ぜひ、読み聞かせをしてあげてください。子供たちは、絵本の中で、たくさんの知らない人に出会うことができるでしょう。話すこともできます。どうして?なんで?どうなっちゃうの?等々、自分の中に問いを立てながら、思うこと、考えることに浸ってほしいです。わくわくする楽しさだけでなく、得も言えぬ恐怖や物語から不条理を感じるかもしれません。子供たちに、今だからできる教育が絵本や物語との出会いだとしたら、これは子供たちにとって一生の財産になりますね。大人も、絵本に癒されたり、励まされたり、気付かされたりすることがあるだらうと思います。それぞれの場所に留まって、子供への教育の視点を見失わずに、今できることを実行していきましょう。

幼稚園の再開、そして皆さんに再会できる日を心より願っています!!

